

令和2年度第2回川崎市資産改革検討懇談会（議事録）

- 1 開催日時 令和3年1月28日（木）午後3時00分～午後4時00分
- 2 開催場所 Web会議にて開催
- 3 議題（公開）
 - （1）施設白書について
 - （2）次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について
- 4 傍聴者数 0人

5 会議内容

（1）施設白書について

有識者委員

市民ニーズの把握について、2016年に八王子市が行ったアンケート調査では、市民の方々からも資産保有総量の縮減については進めていくべきという回答が半分以上であり、総論としては強い支持を受けている。川崎市においてもこうしたアンケート調査を行っておくと、今後公共施設の最適な配置等を行う際のデータとして活用できるのではないかと思う。

総量縮減が全てではないが、総量縮減を進めていくのであれば、このようなアンケート調査と合わせて、どのような施設について最適化が必要と思うか、といった投げかけをアンケートで行うとよいと思う。八王子市の例では、利用者が少ない施設、一部の個人や団体のみが利用している施設は見直しても良いという意見が多く、府中市も同様の結果であった。単に総量縮減、施設の統廃合のみを進めていくということではなく、こうした様々な調査を行っている、一部の個人や団体のみが利用している施設などを市民の方々が問題視しているということが浮き彫りになってくることもあり、意識調査は非常に重要である。また、八王子市のアンケート調査では、見直すべき施設として民間や近隣市で同様のサービスが提供されている施設も無視し得ない比率が挙げられている。こうした施設は運動施設が多く、運動施設の特徴であると思う。

行政側出席者

本市では市民館・図書館にあるホールの実態を調べているが、ホールでも同様に、近隣自治体のホールに行く傾向があるか、先生の方で把握されていたらご教授いただきたい。

有識者委員

実例としては関わったことがないが、特徴的には総合市民会館のような複合施設、スポーツ施設においては区域外の利用者が多いのではないかと思う。利用者に対するアンケート調査を行えば、良い発見があると思う。

行政側出席者

来年度アンケート調査を行う予定であるので、ご意見を参考にアンケートを取ってみたいと思う。

有識者委員

小平市では、市街地再開発事業で新設された施設の一部を市が公共床で取得して使用するというプロジェクトがあり、市民の方々にどのように使うか、市がイメージを示した上で、意見公募を行った。意見公募では、市民の方々から建設的な、前向きな意見が多く挙がってきており、新鮮な発見であった。意見公募は施設のプロジェクトについては有効であり、地に足のついた意見が挙がってくるという印象を持っており、市民ニーズの把握では有効な手段だと思う。

資産保有の最適化を進めるためにはいくつかの手法があるが、先行事例として、府中市では、施設ごとの費用対効果を図式化して浮き彫りにしている。不特定の市民が利用する施設の一人当たりのコストを図で示し、コストが高いところを明確化しており、こうした施設について統廃合を優先的に考えていくべきではないか、としている。また、秦野市では区域に着目し、近接した施設がほぼ同じ頃に法定耐用年数を迎えるそのときに複合化を考えるべきではないか、と考え、特定地区内で、それぞれの施設の耐用年数を図示している。八王子市では、民間委託、民営化の優先度を考えるために、横軸に民間サービスによる代替性、縦軸に市民生活における必需性をそれぞれ3段階で測り、施設を合計9通りに分類することで、民間サービスによる代替性が高く、市民生活における必需性が低い施設について民間譲渡する優先順位が高いのではないかと、ということになり、具体的には公営の駐車場が浮き彫りになっていた。

施設白書で配置状況を図で示して、それを踏まえ、こうした先行事例に基づくアプローチを考えるということが一つの進め方だと思う。

川崎市の施設白書では、施設単位でコスト情報を把握している。対外的に概要を知ってもらうという意味ではこのレベルでよいが、施設の統廃合や、会議室等特定の部屋の統廃合を考える際の議論にはつながらないのではないかとと思う。藤沢市では、コストの内訳をかなり細かく分けており、市民センターの事業運営にかかるコストとして、窓口と市民活動支援と地域環境整備の3つに分けて表示している。そうすると、市民センターの施設間での比較が可能となり、特定の地区の市民センターの問題点等がわかりやすくなり、住民説明もかなりやりやすくなる。白書にどこまで書くかということはあるが、藤沢市はこうしたことを白書に詳しく記載し、住民説明会でも使っており、こうしたやり方もかなり有効だと思う。

資料4の「対外的な資産保有の最適化の説明について」は方法論だと思うが、市民の方々にわかりやすく伝えるためには、詳しいリーフレットを作るよりは、小平市のようにプロジェクト単位で市民に参加してもらい、意見交換をしてもらいながら市の考え方を理解して

もらうことが現実的なやり方ではないかと思う。

行政側出席者

本市でも、例えば大師・田島支所再編整備では、その事例を基に大師・田島地区の方々に資産保有の最適化そのものについて説明をすれば理解していただけると考えているが、こうした事例がない地区の方々に資産保有の最適化をどのように説明していけばよいか悩ましいところであり、ご意見・ご助言をいただければと考えている。

有識者委員

公共施設白書の総論部分、基本的な考え方をより強調し、白書の概要版を作成して周知することや、耳目を集めるような長期ビジョンや基本的な方針を打ち出すことが有効だと思う。また、「公共施設白書」という言葉自体、フレッシュさがなくなっている。内容は同じにしても、新しい名前をつけて打ち出した方がよいのかもしれない。例えば、「川崎市公共施設ニュービジョン」など、先導的な印象を与えるネーミングをすればよいと思う。

行政側出席者

本市においては、施設白書を基に現状と課題を分析し、今年4月に第3期実施方針の方向性とともに出していきたいと考えている。先程お話いただいた藤沢市の例では、かなり精緻にコスト分析を行っているが、施設分類毎に現状と課題を分析するためのコストの取り方について、ご意見・ご助言があればいただきたい。

有識者委員

人件費と事業費の区分は最低限必要。事業費をどれだけ細かく分けるかは、時間と労力との兼ね合いだと思う。それよりも会議室と研修室など、機能ごとにコストを分析することが重要。施設の法定耐用年数が到来した際に、部屋ごとに、会議室は複合化できる、研修室は存続させる、といった部屋ごとの議論になる。こうした議論の際に説明資料として使うことを見越して、データ作りを行っておくとよい。市としても、陳腐化して使われていない部屋はあるのではないかと思う。

行政側出席者

施設白書は、現段階では大まかな傾向をつかむものであり、その中で必要な項目について細分化して調べるという形になると考えている。我々としても部屋ごとの利用状況を調べた上で統廃合を検討しなければならないが、全ての施設においてそうしたデータが取れるわけではないという事情があり、こうした点を市としても見直していかなければ、統廃合を検討する際に客観的なデータが取れないと考えている。

有識者委員

施設白書において、インフラ施設のコストはどのように把握するのか。

行政側出席者

地方財政状況調査及び公営企業決算統計から、維持管理費や建設改良費等のコストを集計し把握している。

有識者委員

維持管理費や建設改良費は、自治体の予算・決算上の数値であり、市が保有している道路等について、存在すればこれくらい費用がかかるということとは少し異なるのではないかと思う。

行政側出席者

インフラ施設について、現状要している費用と、かけなければいけない費用とは異なっているのではないかと認識している。今後要する費用について、今後試算した上で第3期実施方針の中に入れていく形になると考えている。

有識者委員

川崎市は他の市町村と比べて規模が大きい。手間と時間がかかると思うので施設白書については少しずつでも前へ進められればよいのではないかと思う。

また、川崎市は民間の力が大きい。公設民営、民間委託、ネーミングライツはもっと進められるのではないか。特に、ネーミングライツは横浜市と同等の活用ができると思う。民間の力を公共施設の関係で活用することが、川崎市の特徴になるのではないかと思う。これから作る計画において、そうした点にも力を入れていくとよいと思う。

(2) 次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について

行政側出席者

資料5について説明。

有識者委員

附属機関になるということだが、委員長はどなたかに決まっているのか。

行政側出席者

調整の上、連絡させていただきたい。

以上